

平成24年度

応募件数 75件 助成件数 10件

団体名	所在地	活動内容の概要
<p>特定非営利活動法人 きよさと観光協会 会長 川筋 守</p>	<p>清里町</p>	<p>地域資源を活かした新たな冬の体験型スポーツイベントの創出及び移住体験モデル事業による地域活性化 ①「斜里岳スノートレイルランニング2013」の開催 斜里岳の麓の雪原に、パークゴルフ場を発着としたコースを設定し、ランニングシューズやスノーシューで走る「スノートレイルランニング大会」を開催し、冬のスポーツイベントとしての確立を図る。 ②「原生林スノーシュートレッキングin清里」の開催 雪で閉ざされた原生林の中を、自然ガイドの案内付きでスノーシューで歩くイベントを開催する。冬のイベントとしての定着を図るとともに、自然ガイドなどのスモールビジネスの創出を図る。 ③「冬の短期滞在in清里」の実施 首都圏の移住希望者を対象に、厳しい冬の北海道のイメージを払拭し、冬の北海道の良さをアピールするための体験モデル事業を実施し、移住促進事業の推進を図る。</p>
<p>東十勝ロングトレイル協議会 会長 萩原 一利</p>	<p>豊頃町</p>	<p>東十勝ロングトレイルを活用した地域活性化事業 近年における歩く旅の人気を背景として、十勝地方東部の豊頃町、浦幌町に存在する様々な地域資源をロングトレイルとしてネットワーク化することにより、観光地としての魅力の向上を図り、各種プログラムの提供など滞在型観光の推進において、建設業の振興および地域活性化に結びつけることを目的とする。本協議会では、下記の活動を行っている。 1. 地域資源の調査、ルート整備 2. ツアーの実施（6回/年） 3. ツアープログラムの検討 4. 本州来訪者獲得のための販売促進</p>
<p>シーニックパイウェイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート 会長 金道 太郎</p>	<p>函館市</p>	<p>「縄文」をテーマとしたユニバーサルな「学びツーリズム」と青函交流の推進事業 ①「縄文」をテーマとした学びツーリズムの推進 多くの縄文遺跡群が存在する本地域の地域資源を活かし、「学び」を柱とした体験観光を推進するために、旅行客用の縄文に関する簡易なガイドブックの作成、縄文文化体験メニューブックの作成、縄文文化をテーマとした旅行プランの企画と試行（試験販売を含む）を実施します。 ②縄文文化による青函交流の促進 北東北の縄文関係団体や施設との交流事業を行い、連携関係や人的ネットワークの形成を進めるため、北東北の縄文関係団体のヒアリング調査、北東北の縄文関係者を招聘した懇談会の開催、縄文をテーマとした青函周遊旅行プランの企画、試行を行います。 ③ユニバーサルな縄文観光のための人材育成 観光ボランティア等への介助研修や介助経験の多い方への縄文文化研修などを行って、縄文の知識と介助、介護の実務ができる人材の育成を行うために、縄文文化に関する講習会の開催、介助、介護に関する講習会の開催、函館市縄文文化交流センターへの研修ツアーを実施します。</p>
<p>特定非営利活動法人 篠津泥炭農地環境保全の会 理事長 梅田 安治</p>	<p>当別町</p>	<p>篠津地域農地農村の風土生態的景観の体系化 篠津地域は東南を石狩川と河跡湖、西北を多くの小溪流に恵まれた当別丘陵という自然に囲まれた月形町、新篠津村、江別市、当別町にわたる泥炭地を主とする農耕地帯である。その東京山の手線域を超える広大な農地農村域は自然要素を多くもつ篠津運河、防風林を基軸とした排水路が縦横に設置されて、自然的環境に恵まれ水田を主としながらも麦をはじめ多くの畑作・花卉農業が展開している。大都市札幌の近郊とも思えぬ自然豊かに大規模な農地・農村の景観を呈している。それらの貴重な風土生態的景観は身近で日常化している故か、いまだ地域の人びとの十分な評価を受けることなく、未知未利用の状況にあるといえよう。いま周辺部を含めて ①営農作業の経過と圃場の生態的景観の状況 ②自然生態系諸相の季節的変貌 ③地域でのイベント（例えば、わかさぎ釣り・田植祭・収穫祭など）などを関連づけて風土生態的景観として、それらの特性とともに年間の時系列（暦）的に明確にする。今後の地域活動の構想の展開を図る基礎資料とするものである。</p>
<p>鶴居村観光協会 会長 和田 正宏</p>	<p>鶴居村</p>	<p>「地場産ヨーグルト」で村づくりプロジェクト 鶴居村は、釧路市の北西部40kmに位置し、南部は釧路湿原を中心とする湿原・湿地帯、北部は丘陵地帯で、酪農を基幹産業とする風光明媚な村です。村の名前が示すとおり、特別天然記念物タンチョウの生息繁殖地であり、自然環境豊かなところであり、村として“日本で最も美しい村連合”にも加盟しています。 このような中、主な酪農家やレストラン、観光施設等が連携し、美しい村づくりを民間レベルで促進し、それを活かした交流を進めるネットワークが構築されており、特に酪農景観を活かした料理のレシピづくりなど、景観の保全と活用の取組を推進し、美しい村づくりに対する村民意識が浸透しています。 今後は、「おらが牛乳」を使った特産品に向けて取り組みたいと考え、私たちは「食べれる・飲める・料理に使える、地場産ヨーグルト」の開発研究を推し進め、将来の商品としての超業展望などの検討する村民協働のプロジェクトを創り、「鶴居村に特化した食づくり」を目指します。</p>

<p>特定非営利活動法人北海道ふるさと回帰支援センター</p> <p>理事長 佐藤 隆</p>	<p>札幌市</p>	<p>新規就農者の通年型農業経営のモデル手法作成 当法人では農業訓練を実施しており、新規就農を目指す訓練生は札幌近郊や北海道内での就農を目指している。しかし、冬期間に農作物を作るには多額の設備投資が必要なため、年間を通じ安定した農業経営が困難となるのが課題となっている。一方、北海道の基幹産業である農業は、高齢化・後継者の不足や遊休農地の増加による、農業の空洞化が大きな問題といえる。 本事業では新規就農を目指す求職者の安定した農業経営のため、通年を通じて農産物を供給できるモデル手法を検討し、地域農業の活性化に寄与しつつ、地元消費者に安全で安心な食材を提供することを目的とする。</p>
<p>特定非営利活動法人 山ほたる</p> <p>代表 岡崎 善二</p>	<p>占冠村</p>	<p>占冠地域カフェ運営と情報発信（しむかつぶTV）による地域活性化活動 地域の空き家を活用し、インターネットを活用した地域情報の全国発信（しむかつぶTV）を始め、小学生から高齢者までが安心して憩える地域カフェの運営を行うものである。 運営は、数年来、地域コミュニティ活動の拠点として「地域カフェ」の必要性を訴えてきた村民、とりわけ、小・中学校の児童・生徒を持つお母さん方や高齢者と共におこなうものである。この運営を目的にNPO法人を立ち上げたものである。 占冠村は人口減少に伴い少子高齢化が顕著であるが、単に憩いの場としてあるばかりでなく、広く村民のコミュニケーションの場として、村内の課題を解決に導く場としていきたい。併せて、村民自らが、取材する「住民ディレクター」が村内の様々なニュースなどの番組作りを通して、全国に占冠村を動画で配信し紹介するものである。</p>
<p>おこっぺ町づくり研究会</p> <p>会長 仲元寺 恒平</p>	<p>興部町</p>	<p>地域資源の活用と異業種連携ネットワークによる市街地活性化プロジェクト オホーツク管内の北部に位置する興部町は、農業・水産業を主産業とする人口4,200人ほどの町で他町村同様長年に渡り人口減にさらされてきた。人口の減少は地域経済の縮小を生み、これに周辺都市の郊外型大規模店の出店などが加わり、中心商店街が疲弊し、そのコミュニティ機能の低下がさらに商店街から客足を遠ざけるという悪循環に陥っている。一方、近年地域の基幹産業である農業・水産業に回復の兆しが表れ始め、このエネルギーを活かして中心商店街の活性化を図ることが地域の喫緊の課題となっている。 本プロジェクトは町の内外の異業種連携ネットワークを活用し、空き店舗を活用するなど「街中マルシェ」を開催し、町民の賑わいの場、町内外の人の交流の場を創造するとともに、新たな「街なかツーリズム」の構築を目指すことを目的とする。</p>
<p>いわみざわ駅まる。実行委員会</p> <p>代長 平野 義文</p>	<p>岩見沢市</p>	<p>いわみざわ駅まる。鉄道EXPO 2012 岩見沢複合駅舎は、2009年度グッドデザイン賞大賞、2011年ブルネル賞受賞等、国内外12の大きな賞を受賞し、道内をもとより全国に知られています。 そこで、これを契機に、2011年から市民有志が集まり、駅周辺の空間、歴史、食、アートなどを融合し、市の新たな観光資源の可能性を見出し、岩見沢のアイデンティティ確立に向けた動きを始動しています。 2012年は、手宮・幌内間の鉄道開業から130年目に当たり、昨年の活動成果を踏まえ、鉄道ファンや鉄道OBが参加して、音楽ライブ、トークショーならびにお宝自慢を開催し、鉄道の魅力を広く全国に向けて発信し、岩見沢の新たな観光振興の可能性を見出し、地域活性化（まち再生！）につなげる事業に取り組むこととします。</p>
<p>十勝シーニックバイウエイ トカプチ雄大空間</p> <p>代表 野村 文吾</p>	<p>帯広市</p>	<p>ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）育成 十勝地域の最大目標は、生活の質の豊かさ（QOL：クオリティオブライフ）を実感できる地域となること。この実現には「人」が最も重要であり、十勝の生活・魅力を伝えるライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）を育成することで、地域資源の連携を促す。 具体的な事業として、ライフコンシェルジュの新規募集および一般の人々に広く周知するためのパンフレットを作成する。首都圏（東京）の帯広に関わる方にもライフコンシェルジュを担ってもらうため、十勝の魅力を伝えるモニターツアーおよび意見交換会を開催する。首都圏（東京）での十勝の魅力を伝えるプロモーションに協力を要請し、十勝観光の拡大のきっかけづくりを行う。</p>